

来週の「売り物」記事はこれ



2012年8月17日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大型ルポシリーズ「S（ストーリー）」

美空ひばり、AKB48……

時代のプロデューサー 秋元康の「素顔」

朝刊 19日（日）



美空ひばりの「川の流れのように」で昭和の心を美しい言葉で切々とつづったかと思えば、平成の時代にあってAKB48で空前のアイドルブームを巻き起こす——。秋元康さん＝写真＝は、時代の流行をデザインするプロデューサーといっても過言ではないでしょう。昭和の末から今に至るまでの四半世紀にわたって、ブームの先頭を走り続けてきた秋元さんですが、その素顔は意外なほど知られていません。そして、年齢の秘密も……。8月24日からは東京ドームでAKB48のドリームコンサートを開くなど、いまホットな秋元さんに、ベテラン記者が肉薄します。



日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

福井県出身の作家、水上勉さんと原発

「人間の六道」の闇路が始まった

夕刊特集ワイド面 20日（月）



「飢餓海峡」「はなれ瞽女おりん」などの小説で知られる作家の水上勉さん（享年85）＝写真＝は、大飯原発4基が立ち並ぶ福井県おおい町出身だ。当初は原発問題とのかかわりを避けてきたが、晩年は故郷に厳しい言葉を突きつけた。幼くして京都の寺に小僧に出された水上さんは、高速増殖原型炉が「もんじゅ」、新型転換炉が「ふげん」と名付けられたことに対して、「よりによって仏様の名前をつけるとか」とすごい剣幕だったという。「若狭は死の原発の都なのである」と地元を批判すると同時に、電気を浪費する都会には「明るさとうらはらの業に走った」と痛烈だった。

連載「胃ろうと老い」 くらしナビA面 20日（月）～22（水）

胃に穴をあけて管を通し、栄養分を投与する「胃ろう」。口から飲食できない人への処置として、高齢者を中心に利用が増えています。負担の少ない簡便な処置ですが、意志疎通できない患者への導入には賛否があります。胃ろうによる延命か、それとも看取りか——揺れる家族の心情などを、3回にわたり紹介します。

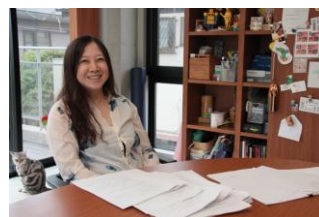




お菓子作りというと、細かい計量などに身構えてしまいがち。料理研究家の有元葉子さんが、手軽にできるおやつを紹介します。余ったパスタ生地を揚げてシナモンパウダーをかけたり、食パンに卵をからめて焼き、メープルシロップでいただいたり。モモを入れた紅茶も風味豊かでお薦め。忙しい手を少し休めて、ティータイムにしませんか。

うちの3姉妹&毎日かあさんコラボ

人気漫画「うちの3姉妹」が、「毎日かあさん」とコラボします。両作の作者、松本ぷりっつさん、西原理恵子さん=写真=がイベントで共演した縁で、2大「子育て漫画」の合作が実現。かあさんと子どもたちは「うちの3姉妹」の家を訪問し、「愛くるしさ」を盗もうと行儀よくしているが……。



障害者スポーツの「今」を追う

— ロンドン・パラリンピックを前に —

運動面「インサイド」21日から連載



世界中を熱狂させたロンドン五輪に続き、障害者スポーツの祭典、ロンドン・パラリンピックが29日～9月9日の日程で、開かれます。ハンディキャップを乗り越えてスポーツに取り組む選手たちの姿は、多くの人に感動を与えます。日本からは135人の選手が参加しますが、その競技環境は今、どうなっているのでしょうか。障害を持つ競泳選手に対応できる民間のプールが少ないなどの問題が続き、また多くの競技団体に活動資金が不足しています。競技用車いす、義足などの用具が進化する一方、購入費、維持費が増えて、競技者たちを悩ませているようです。21日からの運動面連載「インサイド」で、こうした現状に切り込み、5回にわたってレポートします。

企画「浦塩物語」

国際面で連載

ロシアのプーチン政権が「アジア太平洋への窓」と位置づけ、開発に力を入れる極東ウラジオストク。約1世紀前、「浦塩」の名前でも知られ、最大時には約5000人日本人が居住したという。日本総領事館や日本人学校、日本の商店として使われていた建物は、今もほぼそのままの形で残る。9月にはアジア太平洋経済協力会議(APEC)が開かれる。今、注目を集めるこの町を、ベテラン記者が点描した企画「浦塩物語」を国際面で連載します。



露ウラジオストクで開かれるAPEC会場の完成予想図